

保護者・地域・学校が一体となって子供を育む活動 ～支援の会とともに～

三重県津市

活動名

明っ子いきいき支援の会による活動

関係する学校

明小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の年間参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の年間参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

「明っ子いきいき支援の会」の活動は、平成22年度から発達に向けた準備打合せ会を行い、平成23年度から活動を開始した。今年で5年目になる。地域の方は、学校や子供たちに深い愛情を持っており、長く「地域の学校を大切にしていこう」という思いを持っている。その気持ちが形になったものが、「明っ子いきいき支援の会」である。

活動の概要・経緯

(1) 組織・運営について

ア 効果的な運営に向けた取組（地域の実情に応じた組織構成、幅広い関係者の参画等）

○明っ子いきいき支援の会

・支援本部（8名）

・事務局（学校長・教頭・教諭）

・各支援チーム（米作り、明の森、除草作業、花壇、修繕、学習支援、野菜作り、安心安全、図書館教育）

イ 学校関係者との連携協力の体制づくり

（連携する学校側の意見を十分に反映した運営等）

・4月定例会・・・支援本部とチームリーダーが、活動を検討する。

・5月総会・・・定例会の検討をもとにその内容を総会に諮り、各チームごとに具体的な活動内容を検討する。

・年2回（4月・11月）の定例会で、子供たちに「つきたい力・つけないといけない力」について話し合う。

・チーム会議を活動時などに随時開催し、各チームの活動の在り方について検討する。

特徴

【特徴的な活動内容】

・明っ子いきいき支援の会は、支援9チームが教育環境の整備・維持及び学習の支援を行っている。

・明っ子いきいき支援の会とPTA、6年生が懇談を行う。6年生は日頃の支援に対する感謝を伝え、支援の会の方は子供たちへの思いを語り、相互理解の機会としている。

【実施に当たっての工夫】

・児童の活動状況について、教職員が情報交換を積極的に行い、つながりのある指導に努めている。

・各チームが活動内容を交流し、より良い活動について検討する機会を設けている。

事業を実施して

・子供たちが自然の美しさに気付いたり、地域の方の交流が深まったりした。また、コミュニケーション能力の向上につながった。

・子供たちが食の大切さに気付いただけでなく、自分が育てた野菜を持ち帰ることで、家族との会話の促進につながった。

・教職員が地域とつながることができた。

・地域の方をゲストティーチャーとして招くことで、子供たちの自ら学ぶ意欲が高まった。

・図書館整備及び子供たちの読書意欲を高める企画により、子供たちの読書量が増えた。

・登下校の見守りをする中で、子供たちが地域の方に親しみを持ち、進んで挨拶をするようになった。

・支援をする地域の方が、子供たちと触れ合うことで、やりがいを感じる事ができた。



あ☆キラリンフェスティバル

その他

・明っ子いきいき支援の会も参加している明地区子ども支援ネットワークにより、子供たちの支援につながるだけでなく、地域の方々どうしのつながりが深まった。

・「あ☆キラリンフェスティバル」にて、もちつきや合唱発表などを行い、日頃の支援に対する感謝の気持ちを表現する場を設けている。



うちをしたシイタケのほだ木おこし